

CONTENTS

共同行動からのお知らせ

- 「医療における安全文化に関する調査」のご案内
- 医療安全ワークショップの資料と報告をホームページにアップしました

フォーラム・セミナー等のご案内

医療安全ワークショップのご報告

- 教育セミナーA「診療所の安全対策」
- 教育セミナーC「肺塞栓予防のための抗凝固療法の安全管理」
- 分科会「目標2 周術期肺塞栓症の予防」
- 分科会「目標S 安全な手術-WHO指針の実践」

- 成功事例・参考事例を募集しています
→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- 質問・提案をお寄せください→ advice@ppscamp.net
- 標準化病院死亡比 (HSMR) を算出してお知らせします
→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>
お問い合わせは toHSMR@ppscamp.net
- 参加登録病院用のバナーができました！
→ [パートナーズ専用ページ/トップページ](#)
- 参加登録方法に関するQ&A→ <http://kyodokodo.jp/faq.html>
参加登録事項変更等に関するQ&A
→ [パートナーズ専用ページ/Q&A](#)
- キャンペーンポスターをご利用ください
完成版→ http://kyodokodo.jp/shiryoku_koho.html
基本デザイン→ [パートナーズ専用ページ/メニュー](#)

共同行動からのお知らせ

「医療における安全文化に関する調査」のご案内

～「医療における安全文化に関する調査」実施施設募集のお知らせ～

医療安全の向上にご尽力いただきありがとうございます。医療安全全国共同行動技術支援部会では、医療安全を組織的に推進するうえで重要とされる安全文化の醸成に寄与し、質・安全向上の取り組みの効果を可視化する方法の一つとして、「医療における安全文化に関する調査」(以下、安全文化調査)の活用を推奨しています。同調査は米国AHRQが提唱し、国立保健医療科学院が実施した厚労科研費事業のパイロットスタディで日本版の有用性が確認されました。このたび、同事業の研究チームとデータ処理を担当したMDB社のご承諾を得て、希望施設での調査実施が可能になりましたのでお知らせいたします。調査結果の報告例と活用方法の説明を以下に抜粋しましたのでご参照ください。また調査結果の活用方法の参考として「安全文化を醸成するチームSTEPPS」の教材の一部を提供します。→ [調査結果の報告例と活用方法の説明](#) を読む

(医療安全全国共同行動技術支援部会 安全文化調査チーム 担当 種田憲一郎)

* 詳細は、[公開ページ](#) → [トップページメニュー「共同行動の概要」](#) → [サブメニュー「安全文化調査」](#) をご覧ください。

医療安全ワークショップの資料と報告をホームページにアップしました

[分科会資料—パートナーズ専用ページに掲載]

4月28～29日に京都で開催された「医療安全ワークショップ“いのちをまもるパートナーズ”」の目標別分科会で発表されたスライド資料や配付資料のうち、講師の先生方のご了解をいただけたものについてパートナーズ専用ページに順次アップしています。ぜひご利用ください。(パートナーズ専用ページは参加登録施設・参加団体・協力団体・企画委員会・技術支援部会向けの専用ページです)

* [パートナーズ専用ページログイン画面](#) (ログインIDとパスワードは参加登録時にお知らせしています) → [トップページメニュー「フォーラム発表資料」](#) → [サブメニュー「H24.4.28-29京都ワークショップ」](#)

【全体および各プログラムの報告—公開ページに掲載】

当日のようすを各プログラムの報告と共に公開ページにアップしましたのでご覧ください。

* [公開ページ](#) → [トップページメニュー「フォーラム/セミナーの報告」](#) → [平成24年4月28・29日](#)

[医療安全ワークショップ](#)

フォーラム・セミナー等のご案内

「[共同行動カレンダー](#)」を定期的にチェックしてご利用ください。イベントのタイトルをクリックすると内容が表示されます。

9目標に関連するフォーラム、セミナー、シンポジウム、講習会

NEW! 医療安全管理者養成研修会[第2回] (すべての目標に関連)

日程：2012年7月12日(木)、13日(金)、14日(土)、8月2日(木)、3日(金)、4日(土) ※6日間で1コース

会場：東京ファッションタウンビル東館9階

主催：医療の質・安全学会

* 詳細は <http://www.procomu.jp/qshseminar/> をご覧ください。

募集メ切：2012年6月25日(月)

* メ切後、全日コースに空きが出た場合に限り1日コース、半日コースも受け付けます。

お問い合わせ先：株式会社プロコムインターナショナル

TEL:050-3611-2716 FAX:03-5520-8820 E-mail:qshseminar@procomu.jp

NEW! 委員会シリーズ医療安全 (すべての目標に関連)

〈東京会場〉

日時：2012年7月28日(土) 9:00～16:00

会場：日本精神科看護技術協会 東京研修会場

〈京都会場〉

日時：2012年9月16日(日) 10:00～16:00

会場：日本精神科看護技術協会 京都研修センター

主催：日本精神科看護技術協会

* 詳細は <https://www.jpna.jp/> をご覧ください。

NEW! 弾性ストッキング・コンダクター講習会(目標2に関連)

〈弘前地区〉

日時：2012年8月4日(土) 12:45～17:00

会場：弘前大学医学部コミュニケーションセンター

〈浜松地区〉

日時：2012年9月15日(土)

会場：浜松医科大学講堂(予定)

主催：日本静脈学会

* 詳細は <http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html> をご覧ください。

[その他のセミナー]

NEW! 第9回セデーショントレーニングコース in 兵庫医大

日時：2012年6月30日(土) 13:00～17:00

会場：兵庫医科大学1号館5階中央手術室

NEW! 第10回セデーショントレーニングコース in 浜松医科大学

日時：2012年7月14日(土) 13:00～17:00

会場：浜松医科大学附属病院シミュレーションセンター

NEW! 第11回セデーショントレーニングコース(歯科医師限定)

日時：2012年8月11日(土) 13:00～17:00

会場：兵庫医科大学中央手術部

NEW! 第12回セデーショントレーニングコース in 大阪歯科大学附属病院

日時：2012年9月8日(土) 13:00～17:00

会場：大阪歯科大学附属病院11階歯科麻酔科外来

主催：日本医学シミュレーション学会(JAMS)

* 詳細はJAMSホームページ (http://www.jsdam.com/index_in.php) をご覧ください。**医療安全ワークショップのご報告****4月28日(土) 教育セミナーA****「診療所の安全対策(医科診療所と歯科診療所)」**

教育セミナーAでは、小規模医療機関における医療安全、とくに医科診療所と歯科診療所における安全対策について現状報告と話し合いが行われました。

まず、医療安全全国共同行動呼び掛け団体である日本医師会の高杉敬久先生(医療安全担当常任理事)から「診療所の医療安全対策」と題してご講演いただきました。12年間、日本医師会で続けて来られた「医療安全推進者養成講座」の受講者は延べ7800名、主に看護職で、コミュニケーション論、職場環境論、事例分析の方法論、法律論のほか、最近ではメディエーターの話題も取り上げ、6年前からはe-ラーニング方式も取り入れておられるとのことでした。また、

[診療所向けの『医療事故削減戦略システム～事例から学ぶ医療安全』](#)

についても詳しくご紹介いただきましたが、写真やイラストも豊富で読みやすく、今日からでも現場で使える小冊子として皆さんに是非お勧めしたいと思いました。まとめとして日本医師会医療安全対策委員会の活動とその成果としての報告書「[医療安全の推進と新しい展開について\(平成24年3月\)](#)」をご紹介いただきました。

次いで、日本歯科医師会の溝淵健一先生(医療管理担当常務理事)から、「医療安全全国共同行動ーいのちを守るパートナーズ」の趣旨に賛同して、標準予防策(スタンダード・プリコーション)を中心に、歯科医の間で積極的に啓発を展開されていることが紹介されました。

次いで、下記の資料1、2を司会者が概説した後、コメンテータの宮本智行先生(東京医科歯科大学歯学部附属病院医療安全管理室副室長)から、歯科における医療安全への取り組みの実態に関する全国調査の結果をご紹介いただくとともに医療安全対策推進に当たりのいくつかの有用な提言がありました。 [スライド資料](#)

そのあと、自由討論に移りましたが、京都府歯科医師会常務理事の松田亮先生からは、会員アンケート調査を行ったところ歯科医の間で医療安全についての意識がまだまだ低いことが紹介されました。また、佐賀大学病院薬剤部の平野和裕先生からは診療所の医療安全における調剤薬局の役割について発言があり、医師・歯科医師・薬剤師三者の連携が必要であることが再認識されました。また、外来診療では受付等でのクレーム対応事例が特に多いことから、現場の改善活動推進のきつ



日本医師会医療安全担当常任理事
高杉敬久先生

かけとして積極的に取り上げるとよいのではないかと、との意見が出されました。

また、歯科からは一部のインプラント治療に対して国民生活センターに苦情が寄せられているがその多くが非会員の医師であること、医科においても同様の事情があることから、医師・歯科医師に対して啓発活動を行うにしても会員の組織率向上が課題であり、理想的には全員参加の団体が必要である、との意見も出しました。



宮本先生からは、“外来診療のアウトカム指標を今すぐ示すことは難しいが”、との前提で厚生労働科学研究班で検討された歯科診療所のセルフチェック案をプロセス指標策定の素案として紹介していただきました。

さらに、診療所・歯科診療所が医療安全に熱心に取り組んでいることを患者さんにアピールできるように医師会・歯科医師会や医療安全全国共同行動のイニシアチブで何らかの認証を行ってはどうか、との意見も出ました。そのためにも出来るだけ多くの診療所・歯科診療所に共同行動参加施設としての登録を勧める工夫をみんなで考えようとの意思確認を行いました。

一方、小規模医療機関では所長・院長の安全意識が特に重要なので医療機関管理者を対象とした研修会が必要であることでも全員が一致し、具体的には、本年11月の秋期フォーラムで成功事例の紹介も含めた研修会を企画するために連絡を取り合うことを確認してセッションを終了しました。

(技術支援部会 小泉俊三)

資料1: [「アメリカの外来施設、特に小規模外来施設における医療安全の取り組みの現状と特徴」医療の質・安全学会誌第6巻第3号](#)

(米国JC(Joint Commission)の評価・認定プログラム、特に自己評価システムと教育教材を紹介しつつわが国で診療所安全研修を企画するに当たって有用な考え方を整理した厚生労働科学研究報告書)

資料2: [Delivering Quality in Primary Care National Action Plan](#)

(スコットランドNHSが2011年に作成したアクションプラン)

4月28日(土) 教育セミナーC

「肺塞栓予防のための抗凝固療法の安全管理」

司会：瀬尾憲正(美術館北通り診療所院長、香川大学臨床教授、昭和大学客員教授)

講師：中村真潮(三重大学大学院臨床心血管病解析学教授)

静脈血栓塞栓症の予防に関する日本におけるリーダーの一人である中村教授から肺塞栓症に対する抗凝固療法についての講義であった。



まず、肺塞栓症の主な原因である静脈血栓塞栓症の概略の説明に続き、肺塞栓症の一般的な予防法として、理学的予防法と薬物的予防法を挙げた。ついで薬物的予防法で用いられている各種の凝固薬と、投与適応となるリスク・レベルについて、欧米と我が国での違いを説明した。さらに、我が国で肺塞栓症予防に対して使用可能な抗凝固薬の予防効果と出血性合併症の頻度について治験結果などを紹介し、出血性合併症リスク因子として、腎機能障害、抗血小板薬併用、非ステロイド性消炎鎮痛薬使用、高齢、高血圧などを挙げた。

最近、我が国で臨床使用が認められた新規抗凝固薬における出血性合併症について経時的変化について説明があった。出血性合併症の発生件数は、導入早期では使用患者数が増加するのに比例して増加したが、その後は使用患者数が増加しても出血性合併症の発生件数がプラトー状態になっていることを明らかにして、使用経験が重要な因子であることを示した。そのような点を考慮しながら、予防法の個々の症例での実施においては、血栓のリスクと出血リスクを考慮して、出血リスクの高い時期での予防法の選択(理学的予防法のみ、薬物用量を少なくして理学的予防法との併用など)するのが好ましいと提案した。

最後に、肺塞栓予防のための抗凝固療法の安全管理のためには、以下のことを挙げた。

- ・抗凝固療法の適応患者を適切に選択し、出血性合併症に十分注意すること
- ・創部出血以外に、脳出血、消化管出血、さらに脊髄硬膜外出血に留意すること
- ・出血リスクとして、腎機能障害、抗血小板薬併用、非ステロイド性消炎鎮痛薬内服、高齢者などがある
- ・新規抗凝固薬は安定性が高いが、モニタリングや中和が困難であるため、その特徴を十分に理解して使用すること

(目標2支援チーム 瀬尾憲正)

4月29日(土) ワークショップ 分科会

「目標2 周術期肺塞栓症の予防」

司会：瀬尾憲正(美術館北通り診療所院長、香川大学医学部臨床教授、昭和大学客員教授)

保田知生(近畿大学医学部外科講師、附属病院医療安全対策室副室長)

主題「周術期肺塞栓症予防のための実践トレーニング」

講師：瀬尾憲正(美術館北通り診療所院長、香川大学医学部臨床教授)

小林隆夫(浜松医療センター院長)

保田知生(近畿大学医学部外科講師、附属病院医療安全対策室副室長)

【プログラム】

1) 講義(11:00~11:50) 司会：瀬尾憲正

①周術期静脈血栓塞栓症の発生状況と今後の展望：
瀬尾憲正

昨年7月京都で開催された肺塞栓予防国際フォーラムで採択された議定書を紹介し、各国におけるヘルスケアの政策の一つとしての肺塞栓予防の推進の現状を始めに示した。ついで、我が国における周術期肺塞栓症のこれまでの予防対策と発生状況を説明し、理学的予防法が主体であった第一ステージから薬物的予防法が欧米と同じように行える第二ステージに入っている現状を説明した。

②ヘパリンCa自己皮下注射の適応と導入方法：小林隆夫

ヘパリンカルシウム皮下注5千単位/0.2mlシリンジ「モチダ」の在宅自己注射が平成24年4月1日から保険適用となった経緯の説明があった。適応疾患は、汎発性血管内血液凝固症候群の治療、血栓塞栓症(静脈血栓、心筋梗塞症、脳梗塞症、四肢動脈血栓塞栓症、手術中・術後の血栓塞栓症等)の治療および予防である。そして、添付書類に記載されている基本的注意の説明があった。安全な実施のための、医療関係者用自己注射マニュアルと患者用自己注射マニュアル、自己注射移行チェックシート、患者用自己注射日誌等の紹介とともに、持田製薬社のご厚意により、サンプルを用いての自己注射の疑似体験も行った。最後に、適応を厳格にして正しい使用方法を徹底し、安全管理に努めてほしいことを強調された。

③各種予防効果と合併症対策：保田知生

2) グループ演習 司会：保田知生



時間が押し迫っていたが、実際の症例にもとづいて、5～6人でのグループ演習を行い、リスク評価と具体的予防方法の計画を行った。

症例1 人工股関節置換術の周術期血栓予防対策について

症例2 早期胃癌に術前深部静脈血栓症を合併した症例の周術期血栓予防対策について

協力企業：持田製薬株式会社

(目標2支援チーム 瀬尾憲正)

「目標S 安全な手術—WHO指針の実践」

行動目標S「安全な手術—WHO指針の実践」は医療安全全国共同行動2nd Stageから新たに加えられた目標で、WHO安全な手術のためのガイドライン2009をいかに実践していくかがテーマとなっている。

講演1では西脇公俊氏(名古屋大学医学部附属病院 麻酔科)からWHO安全な手術のためのガイドライン2009の概略説明と、その中で推奨されているWHO手術安全チェックリストの使用方法についてYou Tubeで見られる動画が紹介された。また麻酔科学会認定病院(全1222施設)に対するアンケート調査の中間結果(回答率44%)からWHO手術安全チェックリストの導入が出来ている施設は12%程度であり、それらを含めて導入に前向きな施設は40%程度と推察されることが報告された。

講演2ではミルズしげ子氏(長野日本赤十字病院 看護部 手術室)から手術安全チェックリストの一般病院での導入事例が報告された。当初タイムアウトだけ行っていた状況から、チェックリストについての学習を深め、医療安全推進室へ働きかけや手術室運営委員会での検討を経て導入し、導入後は手術室での医療事故発生率の減少を示すデータや、医療安全全国共同行動のホームページからの抜粋などを手術室に掲示し、チェックリスト使用の意義と重要性をアピールし、チェックリスト使用を鼓舞していった経過が報告された。



講演3では石橋まゆみ氏(昭和大学附属病院 看護部 手術室)から手術安全チェックリストの大病院での導入事例が報告された。医療スタッフの意識を高めるために、手術室実務者会議での呼びかけやポスター作成などの工夫により、チェックリスト使用が徹底されていった経過が報告された。

講演4では市川高夫氏(新潟県立六日町病院 麻酔科)から手術安全チェックリスト導入の意義および当日配布された導入のためのツール(WHO安全な手術のためのガイドライン2009日本語訳、「手術安全チェックリスト」実施のためのスターターキット、「手術安全チェックリスト」実施のためのハウツーガイド、その簡略版、病院がチェックリストを実行する前に答えるべき質問、よくある質問、六日町病院版手術安全チェックリスト)が紹介された。併せて六日町病院でチェックリストを実際に使用している様子が動画で紹介された。

講演5では神里興太氏(琉球大学医学部附属病院 麻酔科)他からガイドラインで推奨されているサージカルアップガスコア(SAS)が術中の出血量、最低心拍数、最低平均血圧から算出される指標であり、文献上と琉球大学で実際の症例で検討した結果から、一般外科術後合併症のリスク評価に有用であり医療の質の向上のためのサーベイランスに利用できる可能性が報告された。

講演6では安田あゆ子氏(名古屋大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部)から手術安全チェックリストを導入し使用を継続することは、PDSAサイクルにおいて安全な手術をしたいというNeedに基づいてサイクルを回していくことであり、そのためにはチェックリスト導入前の状況を把握し、それぞれの施設の現状に合わせて導入し、どの程度導入出来ているかを把握し続けると共に手術の安全性の向上の程度を評価し続けることが重要であると報告された。合わせて評価に用い

る臨床指標の標準化について提案され、評価者育成のためのプログラムを作成中であることが報告された。

参加者は、WHO手術安全チェックリストについて初めて聞いたという方から、すでに導入されている方までさまざまであったが、チェックリスト導入におけるコツとポイントや、実際の使用方法について、またサージカルアップガースコアの意義や臨床指標などについて積極的な質疑応答が交わされ、参加者全員にとってWHO安全な手術のためのガイドライン2009を実践していく上で大変有意義な会となった。

(目標S支援チーム 西脇公俊)

フォーラム・セミナー等のスケジュール

2012年 6月30日(土)	第9回セデーショントレーニングコース in 兵庫医大
7月12日(木)、13日(金)、14日(土)	医療安全管理者養成研修会[第2回]
7月14日(土)	第10回セデーショントレーニングコース in 浜松医科大学
7月15日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
7月28日(土)	委員会シリーズ医療安全(東京会場)
8月2日(木)、3日(金)、4日(土)	医療安全管理者養成研修会[第2回]
8月4日(土)	弾性ストッキング・コンダクター講習会(弘前地区)
8月11日(土)	第11回セデーショントレーニングコース
8月19日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
9月8日(土)	第12回セデーショントレーニングコース in 大阪歯科大学附属病院
9月15日(土)	弾性ストッキング・コンダクター講習会(浜松地区)
9月16日(日)	委員会シリーズ医療安全(京都会場)
9月30日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門
10月21日(日)	医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ入門

★ウェブマガジンは毎月1回、配信いたします。院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”
ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室
E-mail: secretariatpartners@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>